

第 2 学 年 地理歴史科（地理B）学 習 指 導 案

指導者：やまぐち総合教育支援センター

職氏名 研究指導主事 平林 徹

1. 単元名 「日本の自然の特徴と人々の生活」

2. 単元目標

◇ 《情意面》

日本の地形や気候と自然災害の特徴について関心を高め、意欲的に取り組むとともに、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身に付けようとしている。

◇ 《知識・理解、技能面》

日本の地形や気候と自然災害の特徴について大観するとともに、系統地理的にとらえる視点と方法を身につける。また、因果関係を論理的に考え、それを文章でまとめることができるようになる。さらに、自然災害の対策のあり方など課題を設定し、資料を活用してその課題を追究することができるようになる。

3. 単元設定の意図

○ 《教材観》

本単元は、世界の地形や気候を学習した後に位置づけられており、自然地理のまとめとしての役割を担っている。世界と日本の自然環境の関連性や相違点に気付かせ、またスケールの違いにも配慮し、系統地理的にとらえる視点と方法を身につけさせたい。また、この単元後の産業の学習にも自然環境がおおいに関係していることを理解させ、次時につなげていきたい。

○ 《指導観》

そこで、指導に当たっては、次のような工夫をする。

- ・系統地理の特性を生かし、思考・判断に重点をおいた授業にする。
- ・グループ活動を通して、合意を形成する能力を育て、主体的に活動し学ぶ授業にする。
- ・論理的に、文章を書かせることによって、表現力も養う。

4. 評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
単元の 評価規準	・日本の地形や気候と自然災害の特徴について関心を高め、意欲的に取り組むとともに、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身に付けようとしている。	・日本の地形や気候と自然災害の特徴に関する地理的事象から開発のあり方など課題を設定し、追究するとともに、あるべき姿についての視点や方法を考察している。	・日本の地形や気候と自然災害の特徴に関する資料や情報を活用する技能を身につけるとともに、考察結果を文章にまとめたり、発表することができる。	・日本の地形や気候と自然災害の特徴について大観するとともに、系統地理的にとらえる視点と方法を理解し、それらの知識を身に付けている。
	①仕組みや要因を追究する学習に	①地体構造の特徴から、どの	①日本は4つのプレートがぶ	①日本は4つのプレートがぶつか

<p>学習活動における 具体の評価規準</p>	<p>意欲的に取り組んでいる。 ②自然災害の対策のあり方など課題を設定し、資料を活用してその課題を意欲的に追究している。</p>	<p>ような自然災害が起こると考えられるか、また起こる仕組みも考察している。 ②なぜ四季が明瞭か、その要因を考察している。 ③なぜ瀬戸内が少雨なのか、その要因を考察している。 ④気候の特徴から、どのような自然災害が起こると考えられるか、考察している。 ⑤資料を用い、災害についての対策を考察している。</p>	<p>つかり合う地域であることを、地図から読み取れる。 ②大きな断層の位置と名称を地図から読み取れる。 ③要因や対策を論理的に記述することができる。 ④雨温図の特徴を読み取れる。 ⑤適切な災害対策の資料を活用することができる。</p>	<p>り合う地域であることを、理解している。 ②大きな断層の位置と名称を理解している。 ③日本の季節は四季がはっきりしていることを、世界の諸地域と比較して、理解している。 ④日本は世界と比較すると、きわめて自然災害が多い国であることを理解している。</p>
<p>評価方法</p>	<p>・ワークシート ・考査問題</p>			

5. 学習計画（指導と評価の計画）

	学習内容・学習活動	評価規準				評価方法
		関	思	技	知	
1	<p>日本の地体構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は4つのプレートがぶつかり合う地域であることを、地図をから読み取り、理解する。 ・大きな断層の位置と名称を地図から読み取り、理解する。 ・地体構造の特徴から、どのような自然災害が起こると考えられるか、考察する。 ・また、なぜそのような自然災害が起こるのか考察し、そのメカニズムを理解する。 			①	①	<p>考査問題</p> <p>考査問題</p> <p>ワークシート 考査問題</p>
2	明瞭な季節変化					

<p>本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の季節は四季がはっきりしていることを、世界の諸地域と比較して、理解する。 なぜ四季が明瞭か、考察し、その要因を理解する。 なぜ瀬戸内が小雨なのか、考察し、その要因を理解する。 気候の特徴から、どのような自然災害が起こると考えられるか、考察する。 	<p>④③</p> <p>②③</p> <p>①③③</p> <p>④</p>	<p>④③ 考查問題</p> <p>ワークシート 考查問題</p> <p>ワークシート 考查問題</p> <p>ワークシート</p>
<p>3</p>	<p>日本の災害の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は世界と比較すると、きわめて自然災害が多い国であることを理解する。 資料を用い、災害についての対策を考察する。 	<p>④</p> <p>②⑤③</p> <p>⑤</p>	<p>④</p> <p>ワークシート 考查問題</p>

6 本時案

(1) 主眼・ねらい

因果関係を追究する過程、つまり思考・判断をさせる場面を多く設定することによって、系統地理の視点や方法を身につける。知識も単なる事実に知識ではなく、概念的知識を習得する。また、グループでよりよい答えを模索し、合意を形成していくことによって、コミュニケーション能力を身につける。最後に、文章で記述することにより、表現力も身につける。

評価は、ワークシートを取り入れることにより、観点別の形成的評価を可能にした。

(2) 準備

同緯度の雨温図、ヒントの材料、ワークシート（別紙）

(3) 学習過程

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援
MQ なぜ、日本は四季が明瞭になるのか？		
<p>1 導入 日本は四季が明瞭なことを理解する</p> <p>Q 1 次の雨温図の中から、日本を選びなさい。</p> <p>Q 1-s なぜ、それを選んだのか。</p>	<p>・気温の年較差が大きいことを、これまでの学習から理解し、日本を選べる。 ・選べない。</p>	<p>○4都市の雨温図を準備する。</p> <p>○ヒントを与える（サンフランシスコ、アテネ、ワシントン、東京のいずれか）。</p> <p>○同緯度の他の地域と比較して年較差が大きいことを理解させる。（東海岸と西海岸のちがいに注意）</p>
<p>2 展開 (1) なぜ四季が明瞭か、考察し、その要因を理解する。</p> <p>Q 2 なぜ、日本は四季が明瞭になるのか？</p> <p>①自分で考える。</p> <p>②教師のフレームをもとに、</p>	<p>・質問が、漠然とし、答えが見いだせない。 ・既存の知識で、何となく答えることができる。</p>	<p>○わからなくても、答えを言わない。</p> <p>○ヒントを与える。 ①春夏秋冬別に考える ②日本付近の気団図 ③日本は、季節風＝モンスーン気候</p> <p>○冬、春の場合のフレームを</p>

<p>冬・春・初夏の場合を考える。</p> <p>③盛夏、秋の場合を自分で、文章にする。</p>		<p>用意し、説明する。(ワークシート参照)</p> <p>○また、山脈の風下側は乾燥することを図を用いて説明する。(復習)</p> <p>・ワークシートで、思考・判断、表現を評価する。</p>
<p>Q 2 - s なぜ、季節風は風向きが逆になるのか？</p>		<p>○説明する。(考えさせてもよい)</p>
<p>(2) なぜ、瀬戸内は雨が少ないのか、考察し、その要因を理解する。(日本の中にも、地域差があることを理解する)</p>		
<p>Q 3 なぜ、瀬戸内は雨が少ないのか？</p>		
<p>①自分で考える。</p>	<p>・経験上、瀬戸内は雨が少ない事実は知っていると思われる。しかし、なぜ少ないのか、まで考えた者は少ない。</p>	<p>○2 (1) を応用させる。(活用)</p>
<p>②グループで考える。</p>	<p>・すでに学習した知識が定着している生徒が中心となり、考えをまとめ、答えを導き出そうとする。</p>	<p>・ワークシートで、思考・判断、表現を評価する。</p> <p>○意見の磨きあいをさせる。</p>
<p>③文章にする。</p>	<p>・記述しようとする。</p>	<p>○他人に説明できる文章を考えるよう指示する。</p>
<p>3 まとめ</p>		<p>○答えが導き出せなければ、ヒントを与える。</p> <p>①日本地図を書く (中国・四国地方の山脈が描かれたもの)</p> <p>・ワークシートで、思考・判断、表現を評価する。</p>
<p>Q 4 このような、日本の気候の特徴から、どのような自然災害が考えられるだろうか？</p>		<p>○次時につなげる。</p>

ワークシート

1 四季の気候← () の影響をうける。

冬	気圧配置は () の冬型大陸の () 気団から、() した () が吹き出す。この風が、日本海を通過する間に湿潤化し、日本海側に大量の降雪をもたらす。太平洋側は、山脈を越えた際に水蒸気を奪われた風が吹き、乾燥した晴天が続く。特に関東ではこの風を () と言う。
春	3月頃は、() 気団の勢力が弱まり、弱い () が吹き始めて適度の降雨・好天に恵まれる。春先から夏にかけて日本海側を低気圧が通過するとき () 現象がおきる。
夏	初夏は、() 気団と () 気団が日本列島上空で接触し、() が発生し、() となる。また、揚子江気団で発生した、温帯低気圧が梅雨前線に沿って移動し、しばしば豪雨をもたらす。 盛夏は、
秋	9月になると熱帯低気圧の () が来襲し、風水害に見舞われることがある。 その後、

2 瀬戸内は、雨が少ない

自分で考えたもの
グループで考えたもの
最終的な答え

3

気候の特徴	考えられる自然災害